教職員の強みを生かしたOJTとICTの効果的活用による人材育成【観点Ⅲ】

大分市立南大分小学校（児童数776人 学級数30）　大分教育事務所

現状・課題

・全教職員の半数近くが入れ替わり、20代・30代の若手割合が増加。

・3年生では4クラス中3クラス、5・６年生では４クラス中２クラスを20代が担任するなど、経験年数による授業力や生徒指導、学級経営面での不安の解消が急務であった。

取組内容

教員の『強み・得意分野』の可視化とOJT計画

・教員が自身の「得意な指導・強み」を基に、若手教員向けに示範授業や研修を計画的に実施。

・放課後のミニ研修・長期休暇での授業研修。

・生徒指導、特別活動等の主要リーダーに20代、30代の若手を抜擢。前年度の主任や経験豊富なベテラン、学年長がフォロワーとして背後から丁寧にサポート・伴走指導。



ロイロノートでの板書写真撮影・共有による相互研修

・全教職員が授業の板書写真を撮影し、ロイロノートの共有資料箱へ投稿。お互いの板書や授業デザインをいつでも参照・比較検討できる環境を整備。

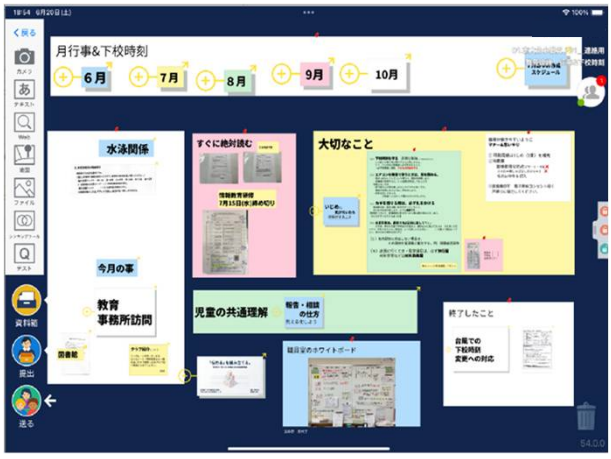
・校内研修で参考にした資料や授業について、ロイロで情報共有することで、若手だけでなく全職員の授業改善にいかす。



チームとICTで生み出す若手のサポート体制

・学年内だけでなく、管理職や専門スタッフ（SSS・補助教員など）を含めたサポート体制を構築することで、業務を平準化。

・ロイロノートでの「３カ月先までの細かな行事予定」の共有。職員連絡のページや、職員室のホワイトボードや提出物締切一覧表等の連絡事項を常時共有することで、経験年数の浅い教員でも見通しがもてる体制を整備。



成果

○ベテラン・若手がお互いに教え合い成長するOJTサイクルの日常化

➡若手リーダーの挑戦をベテランが支え、また板書写真の日常的な還流により優れた指導技術が職員間で自然に継承され、組織全体の指導力が平準化。若手を孤立させず、全教職員がチームとして指導する体制を構築。

○１学期学校評価アンケート「先生は自分の話をよく聞いてくれる（児童）」96.9%

「教職員は子どもにとってわかりやすい授業になるよう工夫している（保護者）」97.5%

「子に応じた指導を工夫しながら、学力向上の取り組みを実践している（職員）」１００％